



平成 19 年 1 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社鈴木工務店
代 表 者 名 代表取締役 千葉慎二
(J A S D A Q ・ コ ー ト ` 1 9 9 5)
問 い 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 専務取締役 木下義治
電 話 0 5 5 - 9 7 1 - 3 0 4 0

合併及び商号変更に関するお知らせ

当社と株式会社アパマンショップホールディングス（代表取締役社長：大村浩次、本社：東京都中央区、以下、「ASHD」）の連結子会社である株式会社ASNアセットマネジメント（以下、「ASN-AM」）とは、平成 19 年 1 月 17 日開催の両社の取締役会において、平成 19 年 6 月 1 日をもって当社を存続会社とする合併（以下、「本合併」）を決議し、両社は本日、吸収合併契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

なお、当社は本合併後も引続き、上場を維持する所存であります。

本合併は、平成 19 年 3 月 23 日に開催予定の両社の臨時株主総会の承認を条件に実施いたします。また、同臨時株主総会決議に基づき、平成 19 年 4 月 1 日付けで当社は商号を「株式会社AS-SZKi（呼称：株式会社エイエス スズキ）」に変更する予定であり、本合併後の新会社名も当該社名といたします。

記

I. 合併について

1. 合併の目的

当社は、平成 18 年 3 月期において株式会社アパマンショップネットワーク（現ASHD）との資本・業務提携を進めてまいりました。ASHDの営業力・情報力と、当社の技術力とを一体化することにより、相互にさらに付加価値の高い事業を展開し、両社の企業価値の向上を図るのがこの提携の狙いでありました。

したがって、当社の鉄筋コンクリート造賃貸マンションに係るローコスト工法のノウハウをASHDグループのフランチャイズ事業に提供する一方、ASHDグループの木造賃貸住宅「煉瓦の家」を当社に導入したことを初めとして、コンストラクションマネジメントの研究や、不動産ファンド等に対する建設協力体制の構築とその実行等、両社とも誠実かつ緊密に提携の相乗効果を高めるべく協力してまいりました。

両社によるそのような業務提携を重ねる中で、さらなる相乗効果を追求すべく両社間での検討を進めて参りましたが、今般ASHDの分割会社であるASN-AMと当社が一体になることが、当社は勿論、ASHD、ASN-AMさらにはASHDグループ全体としても、より効率的でより高い企業価値が生み出せるとの結論に達しました。

当社といたしましては、以前から模索しておりました当社の事業規模・企業業績等のブレークスルーのためのシナリオの第一ステップが、今般の合併により実現できるものと確信をいたしました。

即ち、本合併により、当社のコンストラクションマネジメントに関するノウハウを活かし、不動産ファンドマネジメント事業の強化を図る中で、不動産ファンドの組成・運用は勿論、ファンド向けの用地の仕入・企画・設計・施工・管理という一貫責任体制が確立することとなります。

さらには、ASHDグループの各社との連携強化も容易なものとなり、グループ全体の営業情報の活用により、現在の当社の中核事業である建設事業の拡大にも資することが十

分に可能であると考えております。

当社といたしましては、本合併によりその合併効果をより大きなものとするべく、合併当事両社及びASHDの3社で、今後さらに具体的かつ積極的な検討を慎重に進める所存であります。

いずれにいたしましても、本合併の実現により当社の企業価値を飛躍的に向上させるとともに、合併後はそれをさらに向上させ、株主の皆様を始めとする、利害関係者の皆様のご期待に応え得る企業づくりに専心する決意であります。

(注) 語句の説明

「コンストラクションマネジメント」…顧客の立場に立って、設計から施工管理、資金計画を含む全般的な建設管理を行うこと。

「不動産ファンドマネジメント」…特定の投資家から資金を集めてファンドを組成し、それを不動産に投資して運用管理すること。

2. 合併の要旨

(1) 合併の日程

吸収合併契約承認取締役会	平成19年1月17日
吸収合併契約締結	平成19年1月17日
吸収合併契約承認臨時株主総会（両社）	平成19年3月23日（予定）
商号変更日	平成19年4月1日（予定）
合併期日（効力発生日）	平成19年6月1日（予定）
合併登記	平成19年6月1日（予定）
合併新株券交付日	平成19年6月1日（予定）

(注) ① 商号変更に係る株券引換手続きは平成19年4月2日以降から平成20年3月31日までとなります。

② ASN-AMは「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」第4条に基づく投資顧問業登録をしておりますが、本合併において同登録は存続会社に継承されないため、本合併の吸収合併契約書において、平成19年6月1日までに、当社が同登録を完了できない場合は、効力発生日を登録完了日の属する暦月の翌暦月1日に変更し、その変更は平成19年10月1日を最終期限とする旨定められております。

(2) 合併方式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、ASN-AMは解散いたします。

(3) 合併比率

会社名	株式会社鈴木工務店 (合併会社)	ASN-AM (被合併会社)
合併比率	1	33,000

(注) ① 株式の割当比率

ASN-AMの株式1株に対して、当社の株式33,000株を割当てます。

② 合併比率の算定根拠

当社は税理士法人緑川・蓮見事務所に、ASN-AMは大和証券エスエムビーシー株式会社に合併比率の算定を依頼しました。その算定結果を参考として、当事者間で協議した結果、上記のとおり決定いたしました。

③ 第三者機関による算定結果、算定方法及び算定根拠

税理士法人緑川・蓮見事務所は、当社については市場株価法とDCF（ディスカунテッド・キャッシュ・フロー）法により、ASN-AMについては時価純資産価額法、類似会社比準価額法及びDCF法を採用し、その結果を総合的に勘案し、合併比率を算定いたしました。

また、大和証券エスエムビーシー株式会社は、当社については市場株価法及び

DCF法により、ASN-AMについてはDCF法及び類似会社比較法により株式価値評価を行い、その結果を総合的に勘案し、合併比率を算定いたしました。

- ④ 合併により当社が発行する新株式数等
普通株式 34,155,000株

(4) 合併比率の算定根拠等

① 算定の経緯および算定の基礎

当社及びASN-AMは本合併に用いられている合併比率の算定にあたって公正性を期するため、当社は税理士法人緑川・蓮見事務所に、ASN-AMは大和証券エスエムビーシー株式会社に第三者機関としてそれぞれの合併比率の算定を依頼いたしました。税理士法人緑川・蓮見事務所は、鈴木工務店については公開会社であるため、市場株価法を主たる評価方法として位置付け、また、多面的な観点から評価を行う趣旨から鈴木工務店から入手した将来事業計画を基礎としたDCF（ディスカунテッド・キャッシュ・フロー）法による評価方法を合わせて採用いたしました。また、ASN-AMについては、非公開会社のため、時価純資産額法、類似会社比準価額法およびDCF法が適切な評価方法と判断し、これらの評価方法を折衷する方法により算定いたしました。税理士法人緑川・蓮見事務所はこれらの分析結果を総合的に勘案した合併比率の算定結果を鈴木工務店に対して提示いたしました。

当社は、税理士法人緑川・蓮見事務所による合併比率の算定結果を参考に、ASN-AMは大和証券エスエムビーシー株式会社による合併比率の算定結果を参考に、両者で協議を重ねた結果、最終的に上記合併比率が妥当であると判断に至り合意いたしました。

② 算定機関との関係

税理士法人緑川・蓮見事務所は、利害関係はございません。

(5) ASN-AMの新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い

ASN-AMには、新株予約権及び新株予約権付社債は存在いたしません。

(6) 会計処理の概要

企業結合に係る会計基準上、共通支配下の取引に該当するため、いわゆる「のれん」は発生しない見込みであります。

3. 合併当事会社の概要

①商号	株式会社鈴木工務店 (合併会社)	ASN - AM (被合併会社)
②主な事業内容	建設事業、開発事業	プリシパル・インベストメント事業、ファンド事業
③設立年月日	昭和46年4月6日	平成18年4月18日
④本店所在地	静岡県三島市	東京都中央区
⑤代表者	千葉慎二	大村浩次
⑥資本金の額	1,422百万円	490百万円
⑦発行済株式総数	17,069,916株	1,035株
⑧純資産	2,887百万円	4,062百万円
⑨総資産	5,087百万円	6,916百万円
⑩事業年度の末日	3月31日	9月30日
⑪従業員数	46名	35名
⑫主要取引先	施主等	不動産所有者等
⑬大株主及び持株比率 (平成18年9月30日現在)	(株)アパマンショップホールディングス 47.04% (有)菊物産 6.44% 鈴工パートナーズ投資ファンド5.03% 千葉慎二 4.10% (株)ASNアセットマネジメント 3.51% 鈴木菊三郎 2.34% 鈴木紀子 2.20% 千葉敦子 1.94% (株)静岡銀行 1.44% 鈴木工務店従業員持株会 1.27%	(株)アパマンショップホールディングス 96.62%
⑭主要取引銀行	(株) 静岡銀行	(株)三井住友銀行
⑮当事会社との関係	資本関係	被合併会社は合併会社の発行済株式総数の3.51%を所有しております。
	人的関係	被合併会社の取締役2名は合併会社の取締役を兼務しております。
	取引関係	合併会社は被合併会社発注の建設工事の請負等をしております。
	関連当事者への該当状況	合併会社と被合併会社は、親会社を同一としております。

(注) ① 上記当社の概要は平成18年9月30日現在の実績値を使用しております。

② ASHDグループは、平成18年7月1日付けで、グループ事業のM&A戦略を含めた責任権限の委譲、意思決定の迅速化及び業務執行機能の明確化等を目的として、持株会社体制に移行いたしました。ASN - AMは、かかる持株会社体制の一環として、株式会社アパマンショップネットワーク（現ASHD）のアセットマネジメント事業を、当時のASN - AM（平成18年4月18日に、アセットマネジメント事業の受皿会社とするために新設）が会社分割により承継した会社であります。

③ 上記ASN - AMの概要は平成18年9月30日現在の実績値（非連結）を使用しております。

4. 合併当事会社の最近3年間の業績

(1) 当社

①個別

	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期
売上高(百万円)	5,605	3,587	3,681
営業利益(百万円)	△382	190	91
経常利益(百万円)	△343	158	59
当期純利益(百万円)	△538	161	161
1株当たり当期純利益(円)	△63.18	13.35	13.39
1株当たり配当金(円)	—	—	—
1株当たり純資産(円)	106.70	101.05	163.80

②連結

	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期
売上高(百万円)	7,505	5,223	5,014
営業利益(百万円)	△322	245	107
経常利益(百万円)	△377	198	84
当期純利益(百万円)	△560	160	178
1株当たり当期純利益(円)	△66.03	13.11	14.79
1株当たり配当金(円)	—	—	—
1株当たり純資産(円)	91.74	86.35	156.12

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) ASN - AM

	平成15年9月期	平成16年9月期	平成17年9月期	平成18年9月期
売上高(百万円)	1,668	3,819	10,983	185
営業利益(百万円)	569	565	1,890	△222
経常利益(百万円)	—	—	—	△228
当期純利益(百万円)	—	—	—	△135
1株当たり当期純利益(円)	—	—	—	△347,044.33
1株当たり配当金(円)	—	—	—	—
1株当たり純資産(円)	—	—	—	3,925,413.98

(注) ① ASN - AMは平成18年4月18日に設立したため、平成18年9月期につきましては、5ヶ月間余の変則会計期間です。また、ASN - AMは、平成18年7月1日にAM事業を吸収分割により継承しておりますので、平成18年7月から同年9月までの3ヶ月分のAM事業の損益が反映されています。平成15年9月期から平成17年9月期につきましては、会社分割前の旧株式会社アパマンショップネットワーク(現ASHD)のセグメント情報に基づくAM事業の数値を参考数値として記載しております。

② 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

5. 合併後の状況

- | | |
|---------|---|
| ① 商号 | 株式会社A S - S Z K i (呼称：株式会社エイエス スズキ)
とする予定です。 |
| ② 事業内容 | 建設・開発事業及びプリンシパル・インベストメント事業、フ
ァンド事業 |
| ③ 本店所在地 | 静岡県三島市八反畑1 1 7番地の1 |
| ④ 代表者 | 千葉慎二 |
| ⑤ 資本金の額 | 1,422百万円 |
| ⑥ 総資産 | 12,004百万円 |
- (注)金額は平成18年9月30日現在の両社の総資産を合計したものであります。
- | | |
|-----------|-------|
| ⑦ 事業年度の末日 | 3月31日 |
|-----------|-------|

6. 今後の見通し

来期の業績に与える影響につきましては、「I. 1. 合併の目的」でも述べましたとおり、本合併により、当社のコンストラクションマネジメントに関するノウハウを活かし、不動産ファンドマネジメント事業の強化を図る中で、不動産ファンドの組成・運用は勿論、ファンド向けの用地の仕入・企画・設計・施工・管理という一貫責任体制が確立すること、さらには、ASHDグループの各社との連繋強化も容易なものとなり、グループ全体の営業情報の活用により、現在の当社の中核事業である建設事業の拡大にも資すること、また、本合併によりその合併効果をより大きなものとするべく、合併当事両社及びASHDの3社で、今後さらに具体的かつ積極的な検討を慎重に進める所存であります。なお、詳細が確定次第、速やかにお知らせいたします。

II. 商号変更について

- | | |
|------------|--|
| 1. 新商号(予定) | 株式会社A S - S Z K i (呼称：株式会社エイエス スズキ)
なお、英文名については現時点で未定です(平成18年3月23日開催予定の臨時株主総会における定款変更議案決定の取締役会にて決定いたします)。 |
| 2. 変更日 | 平成19年4月1日(予定) |
| 3. 変更の理由 | 当社の従来からの事業に、ASN-AMによる不動産ファンド関連事業等が加わること、さらには今後の新規事業の展開も考慮し、さらなる飛躍・発展を期して、業種・業容が限定的な現在の商号を新商号に変更するものであります。 |

以 上